

極楽蜻蛉の可憐なイワチドリ

長々と狩蜂を中心に昆虫の話をしてきたが、実は極楽蜻蛉の叔父さん植物が大好きで、セイコーエプソンに入社した昭和34年から色々な植物を遣ってきた。

最初は「バラ」で、次いで「サボテン」も遣った。「バラ」は実家に50本程植え、近所の人達にも観賞して貰った。四賀、村井の社宅、今の家と4回も植え返して渡り歩いたが、今でも数本残っている。毎年5~6月にかけて綺麗な花が咲いたが、今の家に移ってから、冬の間に、土をモグラにかんまされ駄目になってしまった。ピース、エリザベスといった上品な名前のバラが今でも咲く。

その後「蝦夷松」「深山霧島」等に凝ったが、長期の海外赴任で駄目にしてしまった。「深山霧島」には「島田1号」と言う突然変異の矮性個体が50鉢位あった。15~6年前「ウチョウラン」と言う可愛らしい日本の蘭があることを知って、この個体差の多い素晴らしい花に嵌まり込んでしまった。

今では良い花が安く手に入るが、当時は駄花で数千円、少々花形が良く色が濃いと(濃色)数万円、「欲しいなあ」と思うものは10万~100万円もし、山草園では飛ぶように売れていた。高い物は買えないので駄花から始めたが、それでもチョッと買うと万札が何枚も出て行った。2~3年して「ウチョウラン」より更に小型で、もっと可愛らしい「イワチドリ」を知った。この頃からいけない。完全に病気に懸かり、寝ても覚めても花のことし



か考えなくなった。近くでは中山植物園、白樺高原植物園には毎週通った。

通販にも手を出し、奈良県西吉野村の菅野さんとも顔見知りになった。

又、日本イワチドリ愛好会の展示会には新宮市迄何回も出掛け、目の保養をすると同時に色々なことを教わり自信を付けて来た。日本イワチドリ愛好会の幹部の皆さん(児島会長、峰上・三隅副会長、川島・角・谷本・宮本・高橋理事)大変親切で、自生地的事、植え替えの事、消毒と肥料、遠隔地の会員への球根の斡旋等やってくれる。大変有難いと思っている。今年も新宮迄2日ばかりで行って来たが、交配種の素晴らしいものが出ており目の保養になった。帰りには沢山の「イワチドリ」をお土産に頂き、感謝感謝の気持ちで帰って来た。

極楽蜻蛉の蘭舎は6坪のガラスハウスが2つあるが、一つは、今(5/12)、イワチドリが満開で、お互いに咲き競っている。

< 紀州の可憐なイワチドリ >

イワチドリって何ですか？ 原産地は紀伊半島の三重県、和歌山県、大台ヶ原に源流を発し、太平洋に流れ出る深い溪谷の岸壁に自生する 10cm 足らずの蘭である。



日本イワチドリ愛好会の幹部の話によると、14~5 年前は何処の岸壁にもザラザラあったそう。皆さん、夫々ザイルを使って採りに行ったそう。当時、坪により変移団体の面白いものが時々出て、現地ではブームになった。今では実生ものが沢山出て、どういうことは無いが、15 年前位は一点花が 50~100 万円して

いた。それでも一点花は手に入らなかった。当時、富士見町の中山植物園にかなり良い品種が沢山あった。5 月の連休頃が最盛期で、欲しくて、欲しくて毎週見に行ったものだ。

「^{じょうびじん}瀨美人」、「^{じょうにちりん}瀨日輪」等は本当に 100 万円していた。

この頃から小遣いを少しづつ貯めて「イワチドリ」を集めてきた。大概数万円していたので、サラリーマン等には高嶺の花だった。2~3 年して「日本イワチドリ愛好会」に入会した。その年の暮れに、「日本イワチドリ愛好会」の川島理事から、遠隔地の会員に市価より 2~3 割安く斡旋してくれる旨の手紙が来た。リストを見たら皆、登録花の銘品であった。30 球位で 27 万円支払った記憶がある。川島さんも吃驚して球根を集めるのに苦労したようだ。皆、^{めいばな}銘花だったので、^{らんしや}極楽蜻蛉の蘭舎は随分賑やかになった。

「^{じょうにちりん}瀨日輪」が 5 万円ばかりしたが、今では 12~3 本になり、見事に咲いている。その後、購入したり、本場の幹部の方から貰ったり・交換したりで銘品がかなり揃って来た。

ここで「イワチドリ」を系統別に概略見て見たい。(日本イワチドリ愛好会発行の「岩千鳥」16 号に角理事の良い記事が乗っているので、本場の知恵を一部拝借することにした。)

(紅一点花、紅二点花)

「イワチドリ」の並花は、針で付いたような細点が二条並ぶもので、たまに四条点入ることもある。こうした二条点が発展して、線となり紅二点花が混じるようになる。

「^{どろひめ}瀨姫」や「^{きわひかり}沢の光」である。更にその紅点が横に張り出すと「瀨美人」になる。又、一点花とセットで周辺に霧点を装うものがある。「瀨日輪」がそれである。



瀨姫



瀨美人



瀨日輪

(無点花)

花卉全体が着色する「熊野光」「桃源」「藤娘」等の品種と、舌の中心部が白く抜ける「峰娘」「名月」「虹(仮称)」といった品種がある。



熊野の光



桃源



藤娘



名月



峰娘



虹

偶然と思われるが、全染めになるタイプは濃色系が多く迫力を感じさせ、喉もとの抜けるタイプは淡色形が多く、優しさ、上品さを感じさせる。何れも「無点」であるが、「無点」になる原因は異なっているようだ。

全染めタイプは唇弁の通常、点か紅点が入る部分の面積が失われたか、極端に狭められた為、点や紅点が入る余地が無くなり、唇弁周囲の地色が舌全体を染めたものと思われる。一方中抜けタイプは通常、点か紅点が入るべきスペースを持っているにも拘らず点や紅点が入らない、いわゆる「無点」になっている。この為か例えば「名月」等は作によりホンノリ微かの点が入ることがある。

(大輪花)

最近出回って来た大輪品種に「大仁王」「寿光」がある。イワチドリといえ比較的小花が多いが、この両者はウチヨウラン並の花弁を持ち、小柄の茎にドカッと咲くので迫力がある。中でも「寿光」は花が長細く、唇弁が連ながり、多点・霧点が飛ぶので銘品中の銘品である。一方、「大仁王」は熊野川沿いの三重県某町産の銘花で、超多点斑紋花である。「大仁王」の坪からは複数の超大輪花が出現しているが、「寿光」の坪からは出現していないという。

いずれにしても「大仁王」「寿光」という、超大輪花が出現した事により、今後複数の芸を持った様々なバリエーションが出現するでしょう。

紅一点花同様、超大輪花にも花卉全体に霧点を散らすものが出る。嬉しいことに「^{じゆこう}寿光」^{だいにおう}「大仁王」共にこの遺伝子を持っている。

交配親として、現在大活躍中で、日本イワチドリ愛好会^{すみ}の角さん、宮本さん等によって色々な子孫が生み出されつつある。この新花は最後の項で紹介する。

ウチョウランには余り見られない特徴なのでこの二種は驚異的な花と言っても過言ではない。



寿光



大仁王

(緋点花)

この斑紋はイワチドリ独特なもので、ウチョウランを始め他のチドリ類には見られない。

「^{ふじかすり}不二緋」「^{げつりん}月輪」「^{げつきゅうでん}月宮殿」「^{げつせかい}月世界」に代表される。

「不二緋」は花形も良く、やや大輪に、緋が唇弁に迄延びる。「月輪」は円弁で、緋の血も強く色々なバリエーションを生み出している。「月宮殿」はこの両者を持ち合わせている。将来純白緋や大輪緋の新花が期待できる。



月輪



月宮殿

(円弁花)

最近、円弁花の中から、様々な円弁花が産出されるようになった。濃色円弁無点、純白円弁、大輪円弁、濃色円弁、大輪円弁紅一点等、二芸品、三芸品も出現している。

しかし、原種から選別された淡色超円弁花の「^{まどか}円」、濃色円弁斑紋花の「^{さきさきまる}笹の丸」、水白円弁花の「^{まんげつびじん}満月美人」等、従来からの銘品にも魅力を感じる。

極楽蜻蛉が信州白樺植物園で手に入れた「^{たにむらまる}谷村丸」「^{あすか}明日香」、紀州の角さんから頂いた「^{べにべんけい}紅弁慶」、紀州の川嶋さんから頂いた、狸の腹のように踏ん返り返る「^{たぬき}狸」(上手い命名をしたものだど何時も感心している。ついクスクスする。)等濃色の満月で、大変気に入っている。

円弁花は一種類で株立ちにすると清楚で、温かみを感じられ、味わいもひとしおである。



まどか

笹の丸

満月美人



谷村丸

狸

紅弁慶

^{いちまいぜつ}
(一枚舌)

ウチョウランとは異なり、イワチドリの場合、側裂片と中裂片が分かれている上に、中裂片が更に二裂し、唇弁が四裂した形になる。この中裂片の切れ込みが中々の曲者で、ウチョウランのような真丸の一枚舌になり難い。従って、イワチドリの世界では、側裂片と中裂片が癒着していれば、仮に中裂片に切れ込みがあっても、一枚舌と呼ぶ事になっている。やや中裂片に切れ込みがあっても、かなり迫力があり、観賞価値を高めてくれる。

前述の「狸」も時々一枚舌になるが安定しない。「ちかこ」「天女」「^{てんにょ}風鈴」「^{ふうりん}腹鼓」「^{はらつづみ}」等この部類である。今年、日本イワチドリ愛好会の展示会で角さんの、松本さんの棚で純白の一枚舌にお目にかかった。名前は「^{きふくれん}紀福連」。素晴らしい！何れも大好きな花だ！！



上より左から右へ：「ちかこ」「腹鼓」「風鈴」「紀福連」「天女」「はさみ」

(奇 花)

イワチドリの中で一番好きな花が奇花である。神様は良くしたもので、夫々の花に色々な特技を与えてくれた。一点花、二点花、満月、餅紋、純白皆夫々に特徴を持っているがこの奇花丈は何ともいえない神秘的な、奥ゆかしさを与えてくれる。

子宝咲きの「熊野獅子」、三蝶咲きの「三宝」、すずらん咲きの「姫蛭」「風鈴」「赤連雀」、ミニ花の「童」、菊咲きの「菊姫」「極楽鳥」「岩牡丹」、こけしタイプの「五月鯉」「白こけし」「稚児姿」「翠龍」、変わった所で「異星人」「線香花火」それに「無双」が良い。皆、特徴があって好きだ。皆良い名前を付けて貰った。「熊野獅子」「姫蛭」「童」「稚児姿」「異星人」「無双」等実にいい名前で、体を上手く表現している。



熊野獅子



三宝



姫蛭



風鈴



赤連雀



童



極楽鳥



岩牡丹



五月鯉



五月鯉



翠龍



稚児姿

(ピンク花)

イワチドリの基本的な花色は、淡紫紅色から濃紫紅色である。色変わりとしてピンクと純白花がある。もともと、紫系の色を標準とする花からは、青みが抜けたピンクと青・赤両方が抜けた純白花が出るようだ。スマレ、蓮華、アズマイチゲ等皆そうなっている。

これまでイワチドリにも色は薄いピンク花があったが、ピンクが薄すぎインパクトが無かった。しかし、近年関東の育種家によってこれまでに無いピンク一点花が作出され話題になっている。兜や喉の部分にかぶと



ピンク一点花

のど部分にハッキリとしたピンクの色が浮かび上がっている。今年、紀州の展示会にも出展されていたが、中々の固体である。葉がやや黄緑色で、厚く、軸が太い。今後、こうした花がベースになって、色々なピンク花が作出されるだろう。

(純白花)

純白花には色々ある。「大人」「日足丸」「白鳳」「貴公子」「緑宝」「白雪姫」「学宝」等沢山の固体がある。夫々に特徴があって中々であるが、今一つ迫力に欠けていた。

純白の円弁花は「学宝」がトップ・クラスで君臨して来た。しかし、紀州の角さんが

「学宝」×「白雪姫」の交配に成功し、純白円弁大輪花「白紀宝」、宮本さんの「徐福の夢」等が作出され、略、完成の域に達している。素晴らしい花である。

極楽蜻蛉の蘭舎にも、多分、この子孫と思われる「(仮)白馬大雪溪」という、純白円弁大輪花がある。大野、木崎湖畔のアルプス山草園で入手したが、花の咲く前でも、園主は「一枚舌が出る」と言って手放したがらなかった。無理を言って手に入れたものである。

芸は安定しないが「徐福の夢」の舌が連なる事を思うと同じ系統と思われる。

兎に角、花卉が「白紀宝」ソックリである。(「白紀宝」と「徐福の夢」は兄弟木と言う。)



徐福の夢



白紀宝



白馬大雪溪



角さんの「紀福連」

(その他特徴のあるイワチドリ)

極楽蜻蛉の蘭舎にあるイワチドリで目ぼしい物を紹介したい。

極楽蜻蛉が好きな花が何点かある。兜にかなりの緑色が載る「みどり」、同じく兜に黒茶色の色が載る花形の良い「粹白滯」、濃色の紅一点花「久美人」、一本の本でスズラン花～種々の複雑な花をつける「五十鈴川」等今迄の分類に入れ難いものがある。

先ず写真を見よう。

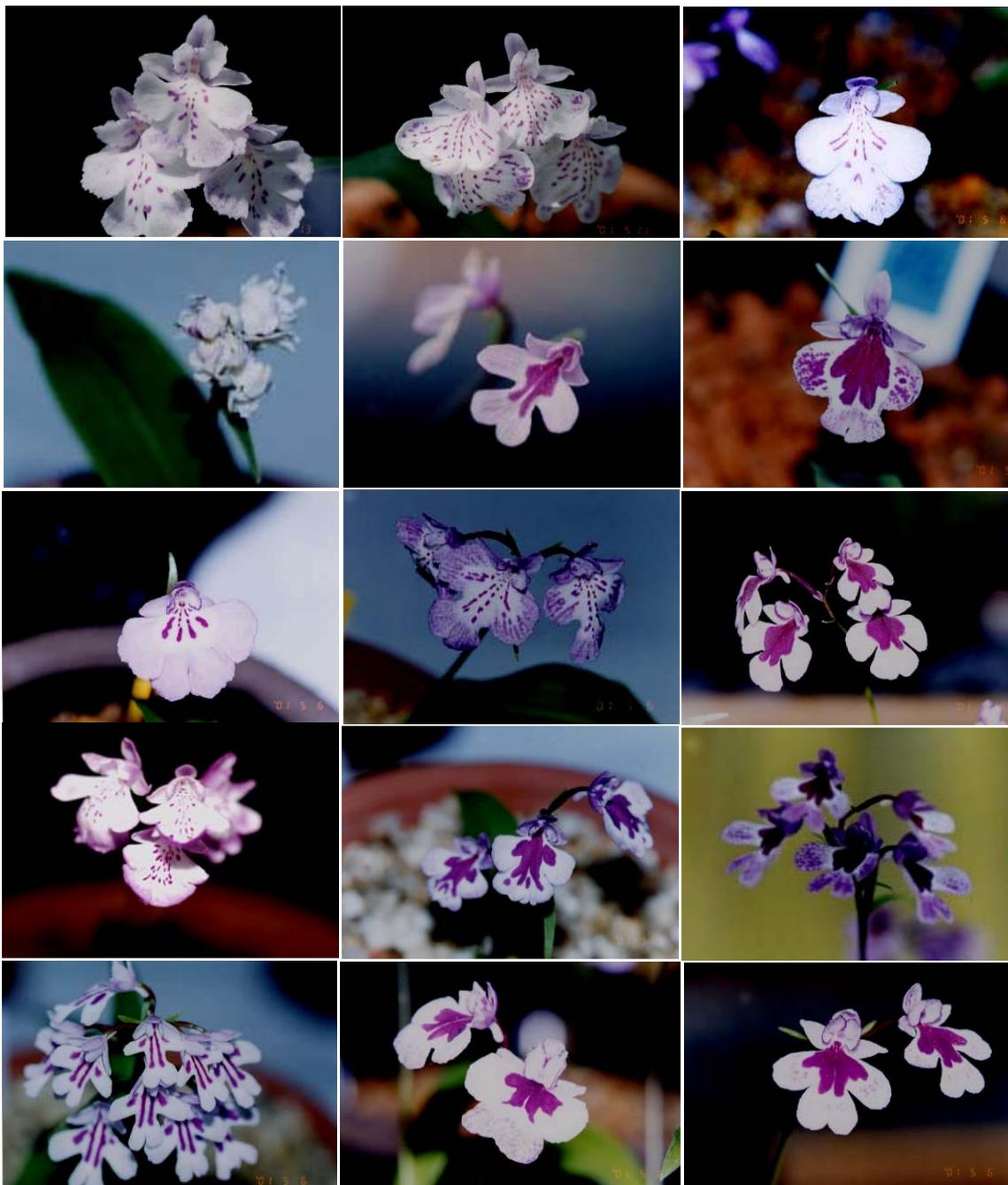


上より左から右へ 「おちよぼ口」「ぼんぼこ」「みどり」「久」「久美人」「熊野緋」「五月雨」「五十鈴川」「紅雲」「紅姫」「紅大王」

「粹白滯」「大狸」「由美人」「紋」 (注) (太字は有望種)

(2001年日本イワチドリ愛好会展示品) 於：新宮自動車会館

新世紀の展示会が、新宮市自動車会館で5/5(土)～6(日)の両日に亘って行われた。展示会への参加は3回目であるが、中々の盛況で、最終日まで大勢の人が終日詰め掛けた。一見して、素晴らしい新作がゾロゾロ出品され、又、奇花の銘品が綺羅星の如く並んでいた。児島会長の許可を得て、厚かましくも展示品の撮影をさせて頂いた。ここに綺羅星の作品を紹介する。



上より左から右へ：「大仁王」(S)「まほろば」「せぶり」「熊野獅子」「熊野緋」「紅紀宝」「?」「藤霧」「静の風」「寿扇」「秘蝶」

「霧霧点」「鈴姫」「麒麟」「?」

<イワチドリの葉芸と奇花>

日本イワチドリ愛好会の幹部の皆様には、日頃色々と御指導頂き感謝しています。信州はお彼岸が過ぎ、幾分春らしくなってきました。我家の蘭舎では2/中からイワチドリが芽を吹き始め、3/5に花が咲き始めました。一年で一番楽しい季節がやって来ました。今咲いているのは「月輪」「谷村丸」「紅姫」「白馬大雪溪」「紫光殿」「大日章」等で、日増しに数が増えている。

昨年から葉芸と奇花に興味を持つようになり、葉芸はサトー山草園と近くの中山植物園から珍品を10数本仕入れた。これ等の中から今迄見たこともない珍品（斑入り、散斑）が出現した。斑入りを栽培された方はご存知かと思いますが、新球が茎の何処に付くかによって、翌年の運命が決まります。即ち、超派手柄の幽霊葉になったり、源平になったり、全くの青っ葉になったりかなり不安定で変化する。

私の所には ① 紀望峰に似た斑入り、② 葉の中央に筋目の入るもの、③ 源平、④ 散斑、⑤ 大団扇、⑥ 爪覆輪等がある。中でも①、②、③からは派手柄が出現するが、



白身（葉緑素の無い物）が強いと、短命のものが目立つ。

「四村錦」という派手な斑入りは、かなりアピール力がある。この種も新球の付く位置によって、色々の芸を持った、斑入り葉が出てくる。毎年どんな芸をした物が出て来るか、楽しみにしている。どうしても派手柄は葉緑素が少ない為弱く、潰れるものが出てしまう。其処に行くと爪覆輪、散斑、墨流しは安定していて強い。

葉芸品は派手柄で安定している物が出ると、富貴蘭、長生蘭、錦蘭等の鑑賞に相通ずるものがあるが中々面白い。

一方、奇花は可也バライティーに富み、非常に興味がある。

今迄「岩牡丹」「唐獅子」「翠龍」「稚児姿」「樂炎」「赤連雀」「姫螢」といった奇花を集め楽しんで来た。最近では整形花より奇花に興味の中心が移ってしまった。

こうなったのは、千葉の蘭裕園から取り寄せたフラスコ出しのアワチドリの中から偶然にも ① 兜咲き、② 超濃紫色、③ 一枚舌、④ 牡丹芸の羅紗葉、⑤ 白覆輪と言う矮性（わいせい）の一品が出現した。この一品は3年程作り込んでいるが、一向に増球してくれない。アワチドリは増球が極めて良くない。その代り親指大の芋になることが多い。

この一品に味を占め同系統の物を毎年買うが、その後出現していない。時々単品で羅紗葉、兜咲き、一枚舌は出るが・・・

話が横道に反れてしまったが、この一件から奇花に興味を持つようになった。

こうなりだすと可也の病気と思われても致し方ない。

改めて日本イワチドリ愛好会の会誌を良く見ると奇花が沢山載っている。この奇花が段々に欲しくなって来た。以前球根の入手でお世話になった日本イワチドリ愛好会の川嶋理事にお願いして見た。2~3週間して返事が来た。ワクワクしながら封筒を開けて見ると、「かなりの球根が入手出来る」との返事でした。飛び上がるほど嬉しかった。

それは「^{じゆこう}寿光」「^{いせいじん}異星人」「^{ふうりん}異星人2号」「^{むそう}風鈴」「^{さんぼう}無双」「^{きくひめ}三宝」「^{きくひめ}菊姫」、ウチヨウランの「^{はやたま}速玉」「^{べにすずめ}紅雀」だった。少々お金が張ったが購入手続きをした。年末、丁寧に水苔に包み、花の産地まで書いた念願の球根が届いた。早速その日の内にニュウの伝一鉢に植え込んだ。

3月、「寿光」「三宝」「無双」の発芽は若干遅れたが、皆、発芽した。3/25「異星人2号」「菊姫」は早生種の為か2~3日すると咲き出しそうだ。

「寿光」の本家、谷本理事には電話で色々ご教授頂き、次は是非「熊野獅子」が面白いからと薦められた。川嶋理事、谷本理事さんを始めイワチドリ愛好会の幹部の皆さん、それに今回分譲して下さったオーナーの皆様には感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。

4月に入ればこれ等の奇花が咲き出すので、今からカメラを用意し、待ち構えています。

最後になりましたが、昨年5/6(日)日本イワチドリ愛好会の展示会に参加する機会に恵まれました。朝7時に家を出て、名古屋経由新宮へ、午後1時に着き、タクシーで自動車会館に向かいました。恐る恐る会場に入り、何時も何時もお世話を頂いている川嶋理事、児島会長、峯上副会長、角理事、谷本理事、高橋理事さんにお会いでき、楽しい一時を過ごさせて頂きました。会場は大勢の見学者でいっぱい、本場の銘品、見たこともない株立ち、奇花の数々を拝見でき、心の洗濯が出来た。今でも脳裏に焼きついている銘花は「寿光」「狸」「風鈴」「異星人」「^{きぼうばい}紀宝梅」「^{きぼうばい}姫螢」それに「^{きぼうほう}喜望峰」・・・でした。

株立ちの「狸」「異星人」「姫螢」等は実に上手い名前を付けたものだと感心させられた。

狸 : 群がった狸が囃子に合わせてハラツツミをしている

異星人 : 未知の宇宙から変わり者のイワチドリ達

姫螢 : 螢が乱舞している様

寿光 : イワチドリの王者・・・寿光さん



上げればきりが無い。夫々皆良い。何と言っても本場で名人達が腕を競って栽培した銘品ばかりである。来場者を釘づけにしていた。

銘品を見せて頂いた上に、大勢の幹部の皆さんからイワチドリのお土産までいただきました。最後の極めつけは慰労会でした。遠方から来たと言うことで懇親会のお誘いを受け、厚かましくも出席しました。夜のふけるのも忘れイワチドリの話に花が咲きました。